

イブ話者と同等の英語力の人、次のクラスhがESL上級、そしてiはESL中級くらいにあたると考えてもらえるとうっかりやすいか思います。

h+レベルの人は、中学三年の秋よりOISの英語の授業をとることができます。OISでは、IB(インターナショナルバカロレア)の授業を行っていますので、日本の学校にいながら、IB English取得が可能です。

高校生になると、英語科で提供している多くの授業の中より自分で選択して受講していきます。(選択授業のシステムについては別の機会に説明させていただきます。)高校生向けに開講している授業は約45種類で、シェークスピア、オースティンなどの文学を題材とした授業、スピーチやディベートのクラス、模擬国連に参加するための授業、絵本を研究・作成してOISの小学生に発表する授業、心理学や言語学を英語で学ぶ授業、など多種多様な授業が用意されています。

SISには、アメリカ現地校で身につけた英語力を「維持」するだけでなく、そこからさらに「伸ばす」ことのできる環境と英語の授業が用意されています。

< SISでの英語：日本人学校出身の場合 >

日本人学校出身の人の多くは、S(スタンダード)レベルからスタートします。中学の最初の二年間は週6時間の英語の授業(日本人教員4時間、ネイティブ教員2時間)で、Cambridge English WORLDWIDEをメインテキストとし、一般の中学三年生までに学ぶレベルを少し超えたレベルまで学び終わります。中学三年生になっての一年間は、高校での選択授業を取れるようになるための訓練期間です。週5時間の、ネイティブ教員のみによる授業。日本語を使うことは許されず、英語の本を読み、英語でディスカッションし、英語でエッセイを書く、ということをして一年間かけて徹底的にトレーニングします。そしてこの授業を終えた後にはiレベルと認定され、高校の選択授業が取れるようになります。その内容は、上記<現地校出身の場合>と同じです。また、iレベルの人も、IB English B(ネイティブではない英語学習者向けのインターナショナルバカロレア)を取得することができます。

なお、高校一年生として入学してきた日本人学校出身の人には、通常この中学三年生の授業からスタートしてもらいます。ここで十分トレーニングを受けた後、SISの高校生向け選択授業に進んでいくことになりますから心配は無用です。各自の状況に応じてそれまでの経験に合ったスタート地点が用意されています。

< その他 >

英語以外の言語として、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語の授業があります。これらの言語で現地校の教育を受けて帰国した人たちにもその言語をさらに学べる環境が用意されています。経験者の人は中学生のうちから、初心者として受講する人は高校一年から、受講できます。

2003年4月より、大阪外国語大学と「高大連携」の関係を結んでいます。高校二、三年生の生徒は放課後の時間を使って大学の授業を受けることができ、それは単位としても認められます。

- 一時帰国の折には、ぜひ学園のバイリンガル環境を実際にご自分の目でご覧になってください。お待ちしております。

井藤 眞由美

いとう まゆみ

アドミッション / 英語科

1959年大阪生まれ。大阪市立大学文学部卒。大阪府立高校に10年間勤務の後、1993-1998年アメリカでシカゴとサンディエゴに在住。サンディエゴでは応用言語学を専攻しM.A.を取得。3人の子供の子育てを通して、現地保育園、幼稚園、小学校、そして土曜日補習校を経験する。2000年より千里国際学園中等部・高等部に勤務。



千里国際学園 中等部・高等部
〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-16
電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055
www.senri.ed.jp
admissions@senri.ed.jp

編集長から一言

現地校のレギュラー・クラスで学んだ子どもの英語力を、保持ではなく、さらに伸ばせる学校は、日本にはほとんどありません。

千里国際学園は、インターナショナル・スクールとの併設のメリットを生かして、ABCからアメリカの現地校の最高レベルの英語までが指導でき、その実績を上げている非常に数少ない学校のひとつです。日本でも特筆に値するこの学校の英語教育の詳細を、保護者として、また自分自身アメリカの大学で英語教育法を学んだ井藤先生に紹介していただきました。

「帰国後も英語学習の継続を」とお考えの保護者の皆様、帰国後なにを目標に、どんな方法でお子さんの英語学習のサポートをしていくべきかを考える、さらに学校選びをされる時の情報になれば幸いです。